

本学舞踊教育学コース「文部科学大臣賞」受賞！ 片岡 康子 文教育学部

この度、第18回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)の受賞作品《人形あそび—愛それとも虐待—》は、児童虐待という凄惨な人間関係^{いじめ}を「人形あそび」の場に置き換えて創作しました。今、大きな社会問題となっている重いテーマだけに、形をなぞるだけの表現ではなく、一人一人が生身の人間として、人間の真髄に触れる表現に達するまで、文字通り悪戦苦闘。5月から7月末までの3か月間、平日は授業終了後より5時間、土日10時間強の毎日の練習で作品を深めていきました。結果として、大会関係者や観客の方々からの「これ以上ない傑作」「いたたまれなくて涙が止まらなかった」という言葉とともに、「日本一！」の文部科学大臣賞という最高の栄誉を得ることができました。さらに、郷通子学長からねぎらいのお言葉を添えて頂いた学長表彰は達成の喜びを増幅してくれました。

この場をかりまして、応援して下さった皆さまに、心から感謝を申し上げます。



米国ワシントン大学との連携講義の試み 三浦 徹・熊谷 圭知 文教育学部

すべて英語でやる専門の授業。いったい何人が受講するだろうか？そんな不安を吹き飛ばすように事前登録者は25名。二人の講師（米国ワシントン大学国際学部、S・ハンソン、W・ラッチュ両先生）から指示のあった400頁の予習テキストに恐れを抱いたのか、9月12日、集中講義初日に集まったのは15名。いざ授

業が始まるや、明快な論理構成でジェスチャーやジョークをまじえた講義に、私たちも学生も惹きつけられていきました。それもそのはず、二人はワシントン大でBest Lecture賞を受賞しているということです。2日目にはどんどん質問がでるようになり、最終日は二人一組で、図表やチャートを使い、英語で堂々たる発表。講師からの厳しいツッコミにはさすがに立ち往生する場面もありましたが、お別れの昼食会の頃にはすっかりうち解けました。特別教育研究予算「国際協力人材育成」による新たな試みで、全員が来年以降も続けてほしいと回答しました。授業はDVDに録画し、詳しい報告はグローバル文化学環のHPに掲載されています。



中央左 S・ハンソン先生、右 W・ラッチュ先生

グローバル文化学環HP

<http://www.li.ocha.ac.jp/global/index.html>

ノーベル賞受賞者会議に参加して

西岡 紗良 人間文化研究科 博士後期課程

私は6月26日から7月1日、毎年ドイツで開催の、ノーベル賞受賞者と世界の若手研究者との交流を目的とした、ノーベル賞受賞者会議（リンダウ会議）に、文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官の派遣として参加しました。今年は55回目を記念して、物理学、化学、医学・生理学の各分野の受賞者約50名および世界中の若手研究者約500名の合同会議となり、日本からは15名の若手研究者が派遣されました。

会議は受賞者による講演、受賞者同士のラウンド・テーブルディスカッション、小規模なセッションの他、ダンスパーティーやボートトリップなども盛り込まれ、様々な形でノーベル賞受賞者と触れ合うことができました。講演は異分野の研究者にも比較的理解し易く配慮され、またディスカッションでは環境や教育についても討議され、非常に興味深い内容でした。日本からの派遣者には小柴昌俊博士夫妻との夕食会が開かれ、

直接お話を伺うことができました。

このような得難いチャンスをいただいたことに心より感謝するとともに、来年度以降も本学から、若手研究者が派遣されることを願っております。



小柴博士夫妻との夕食会 西岡さんは小柴夫人の背後

2台のベヒシュタインを使ったコンサート

10月22日、徽音堂において、80年前附属高等女学校と小学校に納入され、先頃修復されたベヒシュタイン製グランドピアノ2台を用いたコンサートが、附属校PTA主催で開催されました。（文責：編集委員会）



学習支援の学生に学長表彰

9月30日に学長表彰が行われました。文教育学部の吉田和葉さんと松永一飛さんには、交通事故に遭って通学が困難になった学生を1年に渡って学習支援したことに対し、賞状が贈られました

（文責：編集委員会）



松永 一飛さん



吉田 和葉さん